

事例

「体験 パワフル1年生！」

— みさき子育てフォーラム —

1. 実践の概要

1年生になってみよう！（教員連携）

岬町では、就学前教育と学校教育をつないでいく取組みや教職員の交流、子どもたちの交流を推進していくために「みさき子育てフォーラム」を数年前に立ち上げた。

その取組みの一環として、幼保小中の教職員が小学校1年生の授業を体験して子どもの立場から幼保小間の段差を実感することにより、「段差」を解消するための手立てを協働で発見することをねらいとして、ひらがな学習体験「パワフル1年生」を実施した。町内の32名の幼保小中の教員が参加して、ひらがなの「を」の勉強をした。「先生」役は小学校の先生、「子ども」役は幼保中の先生である。

小学校に入学したら、すぐに机と椅子に座って勉強が始まるという印象があるが、幼保小間の段差解消のために小学校の1年生を担当する教員は、工夫を重ねている。



● 授業研究の様子



☞ カードに書いてある動物（ライオン・カエル・サル・ネコ・ブタ・ニワトリ）の鳴き声でグループに分かれましょう！

この授業では、初めから子どもたちに鉛筆を持たせて教え込むのではなく、子どもの興味をひきそうな動物の鳴き声から導入が始まった。これは、カードに書かれている文字を読む、学習前の体と心をほぐすという意味がある。

「早く仲間を見つけるためには大きな声で鳴こう！」



☞ 体を動かしながら、『を』を書きましょう！「みぎむいて、したむいて、でんぐりがえって、おととと」

形のとりにくい字なので、体を使うとイメージしやすく、動作を伴うので記憶にも残りやすい。

☞ 「それでは、鉛筆を持って書いてみましょう。」 **を**

文字の中に線を書いて覚え、点線をなぞって覚える。小学校では、椅子に座ってじっと聞く時間、体を使って体感する時間など45分間の中でメリハリをつける工夫をしている。



☞ 『を』をいろんな所にくっつけておはなししよう！

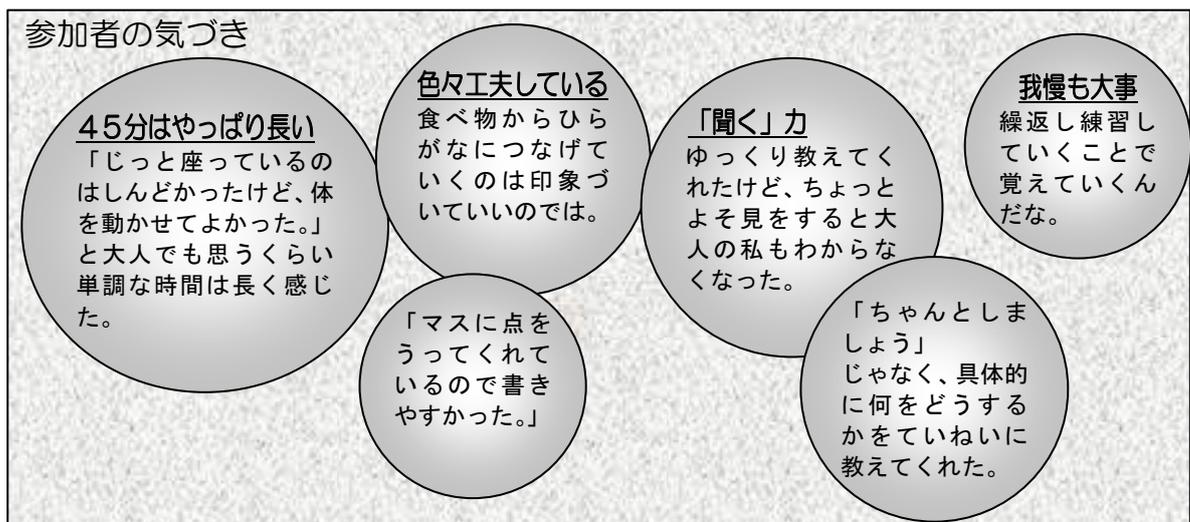
『を』を持った子が「言う」、もう一人が「聞く」という、聞いてもらう心地よさを経験できる。子ども同士、そういう経験を多く持つことが必要である。「コミュニケーション力」はそのような中から生まれ、互いを理解する気持ちも生まれてくる。



- ☞ さて、どんなものがでてきたかな。「食べ物がでてきたよ」
「りんごを食べる。」 「ごはんをたく。」 「食べ物がでてくるとやっぱりうれしいな。」
- ☞ 「を」は、ことばとことばをくっつける役目をするんだね！



● 授業後の気づき



● 授業後の感想

小学校の授業を実際に体験できて、今日はとってもよい機会になったと思いました。幼稚園で勤務しながら、子どもを送り出す小学校のことをまだまだわかっていないなあと改めて感じさせられました。ひらがなをこんなにも丁寧に指導されているということにすごく驚きました。座っているだけでなく、体を動かしたり、友だちどうして相談したり、交流したりしながら学習している様子を知り、小学校の先生方が教材などいろいろ工夫されながら実体験を通して、言葉の学習をされていることがわかりました。「うちの子、字にまったく興味がなくて小学校で大丈夫かな？」と心配されている保護者の方に「小学校は丁寧に教えてくれるから大丈夫よ」と伝えてあげたいと思いました。

2. 連携のポイント

- 授業を幼保小中の教員がみんなで体験してみるという参加体験型の楽しい試みを実施し、協働して段差解消の取り組みを進めている。
- 町の規模を生かして校種間の垣根を越えて、町ぐるみで「めざす子ども像」を共有する取り組みを進めている。

平成16年度の活動

月 日	活 動 内 容	場 所
5月11日	第1回みさき子育てフォーラム	深日小学校
6月10日	公開保育	多奈川保育所
6月24日	保育参観	淡輪幼稚園
7月23日	体験学習「パワフル1年生」	深日小学校
9月 7日	第2回みさき子育てフォーラム 校区别交流・学習会	深日小学校
11月5日	公開保育	多奈川保育所
1月18日	第3回みさき子育てフォーラム 校区别交流・学習会	深日小学校
3月10日	第4回みさき子育てフォーラム	深日小学校